

20年間で7倍以上の商品点数に、拡大を続ける4月始まり手帳市場

手帳とスマホのダブル使いが主流 「手帳は高橋」2020年度版4月始まり手帳発売

株式会社高橋書店（本社：東京都豊島区、代表取締役：高橋秀雄）は、2020年度版4月始まり手帳を2020年2月より全国の書店・文具店、オンラインストアなどで発売します。

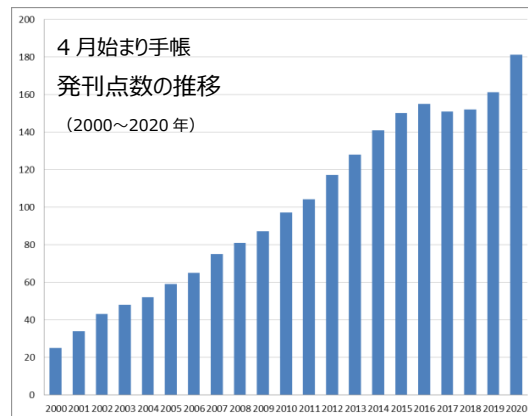
4月始まり手帳の市場は1月始まり手帳のシェアに追いつく勢いで拡大しており、2020年度版のラインナップは新刊30点を含む181点となっています。



2000年には25点だった高橋の4月始まり手帳、20年間で181点まで成長

2000年時点の、高橋書店4月始まり手帳の発刊点数はたった25点。当時はまだ1月始まり手帳が主流で、4月始まり手帳は存在自体あまり知られていない状況でした。しかし、学校や公官庁、年度区切りの人事がある会社など、4月起点で生活に変化が訪れることは多く、高橋書店だけでなく、各社の4月始まり手帳は認知の拡大とともに市場を拓けてきました。

2000年から2020年までの高橋書店の4月始まり手帳の発刊点数の推移は、右記グラフの通りです。市場が拡大していく中で、ユーザーのニーズを考えながら、新刊や廃刊を繰り返し、現在の発刊点数は181点、20年前と比較すると7.25倍の点数にまで成長しました。高橋書店では、手帳ユーザーはリピーターが多いという性質に対し、新シリーズ立ち上げなど、新たなニーズ発掘に取り組んでいます。



4月始まりの市場拡大の背景はニーズと手帳の多様化による相乗効果

2000年当時、手帳はビジネス手帳が主流で、記入形式は「レフト」「セパレート」の2種がほとんどでした。よって、4月に生活スタイルが変わっても、1月に購入した手帳をわざわざ買い替える必要性を感じにくい環境がありました。しかし、ビジネススタイルの多様化や働く女性の増加、スマホの普及などにより、近年の手帳は記入形式やサイズ、カバーの素材やカラーなどが多様化しており、4月に手帳を買い替えるニーズが年々高まっています。

また、高橋書店の手帳アンケート（※）によると、4月始まり手帳のユーザー平均年齢は1月始まりに比べ10.5歳低く、4月始まり手帳には若年層ユーザーが多いということがわかります。高橋書店では2019年より若年層ユーザーに向けた商品開発を行い、結果2年間で57点もの新刊が発刊となりました。

※2019年版商品の投げ込みアンケートより、返送【1月始まり】51,534通：平均61.89歳、【4月始まり】8875通：平均51.39歳

【当リリースに関するお問い合わせ先】株式会社 高橋書店 広告・広報部（担当：多田）

TEL：03-5957-7061 Mobile：090-9969-8132 FAX：03-5957-7079

〒170-6014 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 14F MAIL：k_koukoku@takahashishoten.co.jp

昨年から好調な動き「torinco」シリーズを全 6 タイプに拡大、若者向け新シリーズも立ち上げ

2019 年版で新発売となった「torinco」シリーズは、4 月始まり手帳でも好調な動きをしており、2020 年度版では 6 タイプ 27 点で発刊します。「torinco」シリーズの商品開発では、ターゲットを 20～30 代女性に絞り、「ワンランク上の質感」をキーワードに、手帳の中身だけでなくカバーの手触りやカラーリングにもこだわりました。全国に店舗展開する「ロフト」での、2020 年版 1 月始まり「torinco」シリーズの売り上げは、前年を大きく上回っており（※）、4 月始まり手帳も同様の動きが見込まれます。



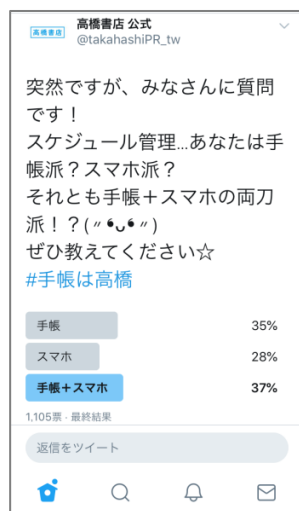
また、若年層手帳ユーザーをターゲットとした新シリーズ「ティエラ」（週間ブロックタイプ、B6 判、全 4 点）、「ジヨルノ」（週間バーティカルノートタイプ、A5 判、全 4 点）も刊行し、新しい 4 月始まり手帳市場の開拓・拡販を目指します。

※2020 年 1 月 5 日時点（ロフト調べ）



高橋書店 2020 年度版 4 月始まり手帳 HP（2020 年 1 月下旬公開）
<https://www.takahashishoten.co.jp/notebook/>

【SNS 調査】 回答者 1,105 名中の 72%が予定管理に手帳を使用



高橋書店が 2019 年 12 月 4 日（水）～10 日（火）の期間、Twitter にて行ったスケジュール管理に関するアンケート調査では回答者の 7 割強がスケジュール管理に手帳を使用しているということがわかりました。回答者は 1,105 名でした。

スケジュール管理方法の回答結果は以下のとおりです。

- 手帳… 35.1%
- スマホ… 28.2%
- 手帳+スマホ… 36.7%

一番多かったのが「手帳+スマホ」のダブル管理で、「今日、明日の予定を忘れないようにスマホに教えてもらい、長期の見通しは手帳でたてる」という声が寄せられました。

スマホで直近予定管理、手帳で長期・全体予定管理、と使い分けているようです。

◀当該ツイート：https://twitter.com/takahashiPR_tw/status/1202059960185585664

【SNS 調査の考察】 手帳の「一覧性」×スマホの「リマインド機能」

手帳、スマホともにメリットもデメリットもあります。手帳は充電が切れて見られなくなることがない代わりに、カバンの中をかさばったり、新しい年には予定の書きうつしたりが必要になります。スマホは月の予定などを俯瞰で見づらいデメリットがありますが、リマインダー機能を使い、予定忘れを防止できます。他にも「スマホは予定管理、手帳はライフログ」「スマホはプライベート予定、手帳はビジネスユース」と使い分けることも可能。それぞれのメリットを生かす使い方ができます。

【会社情報】

1954 年創業、「手帳は高橋」をキャッチコピーに、シンプルだけど細部まで使いやすさを追求した手帳をはじめとして、日記・家計簿・カレンダー・書籍を発刊。（手帳は、毎年 1 月始まりと 4 月始まりを販売。）

全国書店での販売シェアは約 40%強を誇り、販売シェア No.1 となっています。（※自社調べ）

また書籍は、生活実用書を中心に、児童書、就職書、資格書、ビジネス書など多岐にわたって発刊しており、

2016 年より発行の「ざんねんないきもの事典」シリーズは発刊 4 年目にして 360 万部を超えるヒットとなっています。

2019 年 9 月より東京本社を豊島区・サンシャイン 60 内に移転。

